

少子化社会と習い事

小学生の習い事の変遷を探る

本研究は、少子化の進行が小学生の習い事に及ぼす影響を調査し、アンケートを基に3世代（現在の小学生、これまでの世代、個々の親世代）の比較を行いました。1人当たりの習い事の数および種類の変化を指標し、次の仮説を検証しました

- (1) 少子化が進行することで子供1人当たりの習い事の数が増加する。
- (2) 子供1人当たりの習い事の増加が少子化に貢献する。
- (3) 少子化が進行すると、習い事の種類が多様化する。

結果として、少子化により教育資源が集中し習い事の数と種類が増加したことが確認されました。特に、最新世代では語学やITなど新たな分野が台頭しており、時代の変化が反映されています。

本研究は、少子化の進行と教育環境の相関を示し、政策方針への示唆を提供します。